

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ホッケ

学名 *Pleurogrammus azonus*

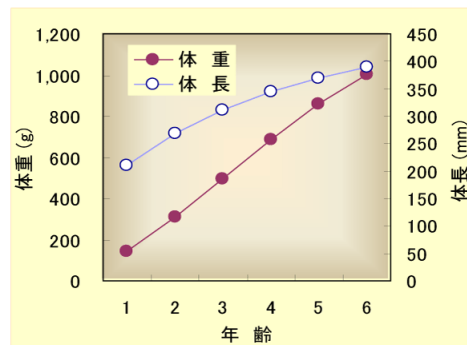
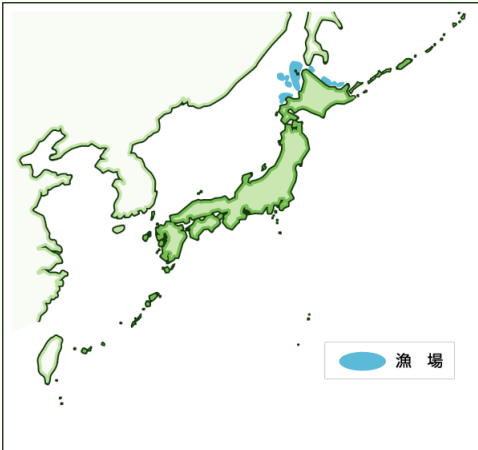
系群名 道北系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 8～9歳
成熟開始年齢: 1歳の終わり頃(満2歳直前)
産卵期・産卵場: 9月中旬～11月上旬、利尻・礼文島の沿岸および武蔵堆の最浅部で産卵
索餌期・索餌場: 稚魚・幼魚期に主としてオホーツク海の表層で生活し、着底後に大部分は日本海へ移動
食性: 仔魚期には主にカイアシ類、未成年期にはヨコエビ類を多く捕食する、岩礁周辺で定着生活に移行後は、様々な種類の動物を捕食
捕食者: 不明

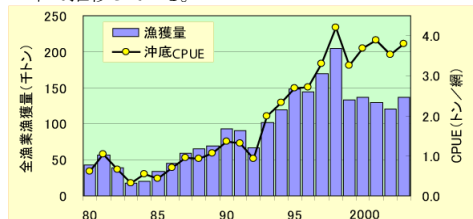


漁業の特徴

ホッケ道北系群は、沖合底びき網(沖底)、刺し網、底建網、まき網などによって漁獲される。漁獲量の大半は、オホーツク海と留萌以北日本海のいずれの海域においても、沖底によってあげられている。

漁獲の動向

ホッケ道北系群の漁獲量は、1980年台後半以降増加傾向にあった。さらに1997年級群が卓越年級群として出現したことにより、1998年には21万トンと過去最大のレベルに達した。1999年以降は12万～14万トン前後と依然として高水準で推移している。

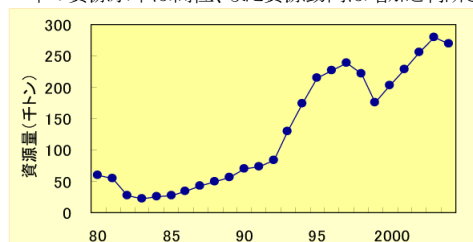


資源評価法

沖底の漁獲量が系群全体の漁獲量の7～8割を占め、かつCPUEの変動が漁獲量の推移と良く一致することから、沖底のCPUEが当該資源の変動を反映する指標と考え、非平衡プロダクションモデルにより資源量、MSY水準ならびにMSYを与える漁獲割合、漁獲努力量などの推定を行った。

資源状態

過去20年間(1985～2004年)の推定資源量の推移から資源水準を、また過去5年間(2000～2004年)の推定資源量の変化から資源動向を判断した。当該資源は1980年代後半に比べて大幅に増加しており、現在も増加傾向を維持している。この結果から、2004年の資源水準は高位、また資源動向は増加と判断された。



管理方策

資源水準、動向ともに好適な状況にあることから、資源水準をMSYの水準へ導くことを管理目標とした。Flimit(=Fmsy)およびFtarget(=0.8Fmsy)を達成する漁獲努力量(ElimitおよびEtarget)を推定し、それに推定された漁具能率と推定資源量を乗じて求めた予想漁獲量を、それぞれABClimitおよびABCtargetとした。

2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
----------	------	----	------

ABClimit	256千トン	Fmsy	-	85%
ABCTarget	205千トン	0.8Fmsy	-	68%

プロダクションモデルのFは漁獲割合を示す
漁獲割合＝ABC／資源重量
資源量は1月の値

資源評価のまとめ

- 過去20年間の推定資源量の推移から資源水準を、過去5年間の推定資源量の変化から資源動向を判断
- 非平衡プロダクションモデルにより資源量、MSY水準などを推定
- 資源は高水準、増加傾向で好適な状況

管理方策のまとめ

- 資源水準をMSYの水準へ導くことを目標
- FlimitおよびFtargetから予想漁獲量を求め、ABClimitおよびABCTargetとした

資源評価は毎年更新されます。